アクティブラーニングを促進するための Padlet の活用
映像ニュースを用いた活動に関する学習者の意識と効果

ウォーカー　泉（シンガポール国立大学）

Use of Padlet for Active Learning
Learners' perception and effects about Media News activities

Izumi WALKER, National University of Singapore

要旨：シンガポールの大学では、新型コロナ対策として 2020 年 4 月に全ての授業がオンラインに移行した。その結果、対面授業では起こりえない課題が浮上してきた一方で、ICT ツールの学習への効果も見えてきた。本稿ではその 1 つとして、日本語上級コースで行った Padlet を活用した実践について報告する。この実践は、映像ニュースを教材として学び合うことにより、日本人大学生とのプロジェクトに必要な言語運用能力や情報の収集、分析、理解力などを高めることを目指したものである。本発表では、この一連の活動内容を紹介した後に、実践の成果と課題について報告する。

キーワード：アクティブラーニング、映像ニュース、Padlet、学習意欲、言語運用能力

1.　実践の背景

シンガポールでは、新型コロナウィルス対策のため、2020 年 4 月初旬から全ての教育機関がオンライン授業に移行した。オンラインへの移行には大きな壁があったが、一方的な講義を聴くといった受動的学習ではなく、書く、話す、発表するといった能動的なアクティブラーニングを実現したいと考えた。溝口（2014: p.31）のいう「知覚・記憶・言語・思考（論理的 / 批判的 / 創造的思考、推論、判断、意思決定、問題解決など）といった心的表象としての情報処理プロセスの外化」が学習には重要であると考えたからである。そのような学びを実現するため、以下のように授業設計を行った。

【コース名】Expository Writing and Public Speaking

【対象】日本語学習者（日本語能力試験 N2～N1）19 名（英語と中国語バイリンガル）

【コース目標】

1. 講義や口頭発表、ニュースを日本語で理解し、要約できるようになること
2. アカデミックな内容に関する発表やディスカッションができるようになること
3. 自律学習能力を高めること
4. 社会人基礎力（チームワーク・協調性・リーダーシップなど）を養うこと

【コース概要】日本人大学生との「星日合同調査プロジェクト」を柱とし、それに必要な知識やスキルが習得できるようにカリキュラムを設定した。このプロジェクトは、日本語学習者が英文記事をもとにシンガポールの時事問題を日本人大学生に紹介し、それに関す

る調査を合同で作成し、両国の大学生を対象に調査を実施し、その結果を発表するというものである。講義（週 1 回 95 分）では、企画書、調査用紙の作成、分析結果のまとめ方、発表の仕方などを学んだ後、日本人大学生とプロジェクトを進め、演習（週 1 回 95 分）では、教科書を用いてアカデミックジャパニーズの習得を目指すこととした。

さらに、授業以外でも一連の活動を日本語で行うための言語運用能力を強化したり、現実社会の諸課題について多面的・多角的に考察を深め、必要な情報を適切かつ効果的に収集、解釈し、クリティカルに考察できるようなメディア情報リテラシー（坂本 2020）を高めることも重要であると考えた。これらの学習を進めるために、Padlet を活用することにした。

2. コース概要と Padlet の活用方法

Padlet は、教育向けの電子掲示板アプリである。写真、動画、リンクなど情報が簡単に貼り付けられたり、掲示板のリンクを共有すればアカウントを作成しなくても参加できたり、同時に複数人が書き込んでも即座にページが更新できるなどの利点がある。本コースではそのような利点を生かして、以下のような活動を行うことにした。

【Padlet の活用方法】（本稿では、以下を「Padlet 活動」と呼ぶ）

1. 各学習者が 1 分程度の TV 映像ニュースを選び、Padlet に掲載する （図 1）
2. 掲載した内容に関する質問を 3 つ作り、Padlet のコメント欄に記述してクラスで共有
3. 他の学生が掲載したニュースを視聴し、質問への回答やコメントを書く
4. 掲載された映像ニュースを使って「映像ニュースのシャドーイング」をする
5. 毎授業一人の学生が映像ニュースを音声を消して流し、「映像ニュースの発表」をする
6. 発表後、Kahoot などを用いて作成しておいたクイズを行い、他の学生はそれに答える

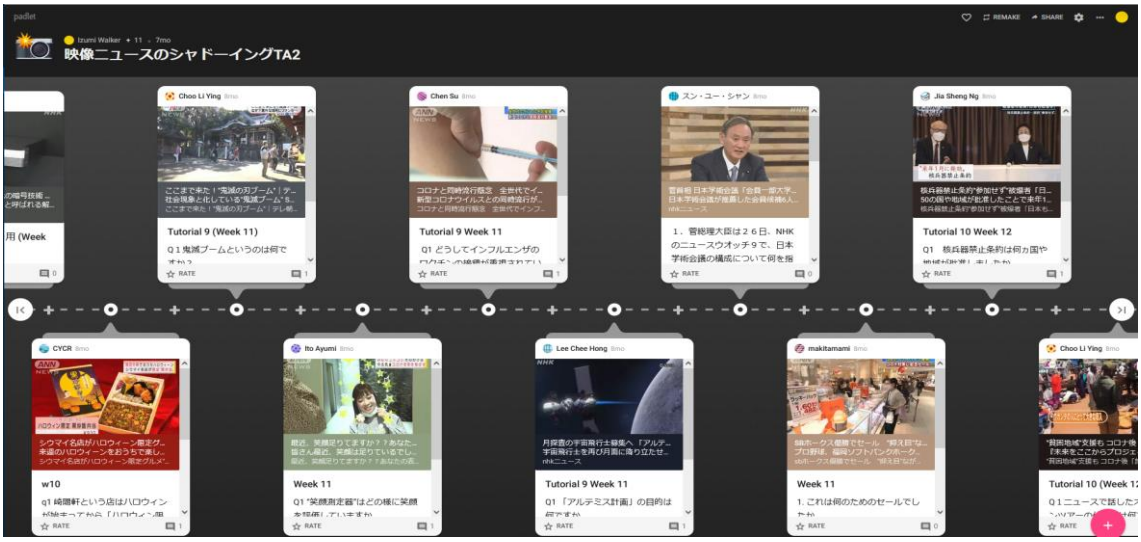

図 1. 映像ニュースを共有した Padlet（https://padlet.com/clsiw/x9ruwva3s0277hxm）

3. Padlet 活動への参加の実態と成果

学期終了直後に質問用紙を用いてコース全体に関する学習者の意識調査を行い、半年後に一人約 30 分間のフォローアップインタビューを行った。質問用紙を用いた調査には履修者全員から回答を得た。インタビューには 8 名が応じてくれた。これらをもとに、学習者がどのように Padlet 活動に参加し、その結果どのような学習効果を得たと感じているか、あるいは、どんな課題があったのかについて分析した。以下はその主な結果である。

3.1 Padlet 活動と学習意欲

この調査では、コース内に行った主な活動（16 項目）を列挙し、ARCS モデル（ケラー2018）の 4 要素（A：注意、R：関連性、C：自信、S：満足）について 5 段階の評価を求めることにより、各活動がどの程度学習意欲を高めたなどについて探った。ARCS モデルは、学習意欲向上・維持のために教師が取るべき行動を上記 4 つの側面から捉えた学習意欲向上モデルであり、オンライン学習環境に関する研究にも幅広く応用されている（鈴木他 2010）ことから、この調査にも緩用することにした。

その結果、「映像ニュースの発表」「映像ニュースのシャドーイング」という Padlet 活動のいずれもが、その他 3 つの活動（「先生の指導とサポート」「NUS の学生間の協働学習」「AJ スライドの作成・発表」）とともに、学習意欲を高めた活動の上位 5 位に並んだ（ウォーカー2021）。特に「映像ニュースの発表」は、「日本語学習を続ける意欲を高めた活動」「最も励んだ活動」「オンライン授業に良い活動」「対面授業に良い活動」としても全て上位 5 位に入った(表 1)。一方、「映像メディアのシャドーイング」は「日本語学習を続ける意欲を高めた活動」として最も高く評価されたものの、それ以外では高評価を得なかった。とはいえ、Padlet 活動は、学習意欲を高める活動であることが示唆された。

表 1：主な学習活動に対する学習者の反応

主な学習活動	学習継続の意欲増進		最も励んだ活動**	オンライン授業に良い**	対面授業に良い**
	平均値*	標準偏差			
映像ニュースの発表	**4.32**	**0.86**	**14**	**27**	**15**
クイズの作成・実施	3.79	1.24	0	11	1
クイズに答える	3.84	1.18	0	0	0
AJ スライドの作成・発表	4.21	1.00	20	12	9
AJ 教科書の問題・要約	4.37	0.93	10	15	7
ビデオ視聴とディスカッション	4.32	0.73	0	1	1
調査・分析・発表の仕方	4.11	1.02	3	1	1
記事紹介作成と発表	4.00	0.97	4	2	1
予備・本調査の作成と実施	3.84	1.09	5	3	5
調査結果の分析と報告書の作成	4.16	0.87	8	2	2
発表スクリプト・スライドの作成	4.16	1.14	19	4	3
プロジェクト発表会	4.37	0.81	18	8	25
映像ニュースのシャドーイング	**4.42**	**0.75**	**4**	**5**	**0**
NUS の学生とのグループワーク	4.26	0.78	5	6	17
日本人大学生との協働学習	3.84	1.23	4	3	19
先生の指導とサポート	4.53	0.60	0	2	3

*は、学習意欲を 1（全く高めなかった）から 5（非常に高めた）の中から選んだ数値の全回答者の平均値

**は、回答者が選んだ 3 つの活動の 1 位を 3 点、2 位を 2 点、3 位を 1 点として合計した数値

3.2　Padlet 活動への参加状況

Padlet 活動にどの程度参加していたかを探るため、各学習者の掲載数と他の学習者が掲載したニュースを視聴し、それに関する問題に回答した回数を数え、表 2 にまとめた。表 2 が示す通り、学生間にばらつきはあるものの、週に 1 回程度、映像ニュースの掲載か質問への回答、またはその両方を行った学生が大半であることがわかった。

表 2:　各学習者の Padlet への掲載数と質問への返答数（全 11 週）

学習者	ニュース掲載数	質問への返答数	合計	学習者	ニュース掲載数	質問への返答数	合計
#1	12	12	24	#11	10	1	11
#2	3	0	3	#12	9	9	18
#3	4	3	7	#13	12	13	25
#4	11	11	22	#14	11	0	11
#5	13	12	25	#15	8	7	15
#6	11	10	21	#16	0	0	0
#7	8	1	9	#17	9	10	19
#8	10	7	17	#18	10	6	16
#9	10	8	18	#19	2	1	3
#10	9	8	17	平均	8.53	6.26	14.79

3.3　Padlet 活動の学習効果と改善点

学習者が、Padlet 活動にどのように取り組み、どのような学びができたと感じているかを探るため、ZOOM で半構造化インタビューを行った。その結果、主な学習効果として、豊富な映像ニュース視聴やそのシャドーイングによる言語運用能力が強化と、学習者間での学び合いによる自律学習の促進が見出された。その詳細について学習者からのコメントをあげて述べていく。なお、(#) は表 2 に示した学生番号、(　) は筆者の補足である。

<u>学習効果１：豊富な映像メディアの視聴やシャドーイングによる言語運用能力の強化</u>

Padlet 活動に積極的に参加した学習者全員が、(a)のようにニュースが容易に理解できるようになったと答えた。これは、Padlet に掲載するニュースを探すために多くのニュースに触れ、掲載したニュースに関する質問を作成するために繰り返し視聴したり、他のクラスメートが掲載したニュースに関する質問に答えるために視聴を繰り返したりするなど、映像ニュースを豊富に視聴する機会や深く理解する努力をしたためであると考えられる。

(a)　（学期の始めに）コロナについてのニュースを流したんですが、そのとき 2 回聞いても 50%しか理解できないです。でも、一学期の後で、毎週ニュースの練習をして、ニュースのビデオを一回聞いたら、だいたいもう 90%理解できるようになりました。とてもいい練習と思います。(#4)

また、シャドーイングを熱心に行った学習者も、学習の成果を実感していた。

(b)　私はシャドーイングが趣味なんです。自分のニュースも、友達のニュースも毎週シャドーイングしました。もっと自然に話せるようになったと思います。(#1)

(c)　シャドーイングは、いろいろな点ですっごく役に立ちました。(#13)

この二人は、学期開始時から流暢な方ではあったが、学期末にはその流暢さが一層増したことが明らかであった。その他の学習者はシャドーイングの効果は認識しているものの、それほど頻繁に行ったわけではなかった。しかし、自分の「映像ニュースの発表」のため

にシャドーイングに相当励んだようである。「映像ニュースの発表」では、ニュースの画像だけを流し、ニュースキャスターさながらにニュースを伝えることになっていたためである。一方、（e）のように推奨した方法で行わなかったために上達しなかった学習者もいた。この学生は確かに最後まで口が重く流暢さに欠けていた。シャドーイングを効果的に行うためには、適切なフォローアップが重要であることがわかった。

(d) シャドーイングは日本語のどのレベルでも大事だと思う。でも、自分の発表のときしかしなかった(#17)。

(e) シャドーイングをした時点で、発音は注意しませんでしたから、私の場合は発音の練習の役に立ちませんでした。でも、それは人によると思います。（#3）

学習効果 2：学習者間での学び合いによる自律学習の促進

Padlet 活動では、自分の興味のあるニュースだけでなく、クラスメートが選ぶ幅広いニュースも見ることになるため、視野を広げることができるという利点もある。

(e) 自分が流したら、１つのニュースですから。でも、みなさんのニュースを見たら、２つ、３つのニュースが一緒に見られるということです。 (#4)

(f) 自分で選ぶニュースは決まっています（野球関係）。でも、他の人が選んだニュースも見ることにチャレンジしたので、視野が広がりました。(#13)

Padlet 活動は楽しいという印象を持っている学習者も多かった。クラスメートの共有やコメントのやりとりが、楽しむ要素となったようである。

(g) 私が今学期印象に残っているのは、毎週の映像ニュース。とっても楽しかった。毎週人が変わっていますよね。みんなから、勉強になりました (#17)

(h) （最も印象的だったのは）やっぱり食事のニュース。食べ物のニュースとか。遊園地の観覧車の中で食事ができるとか。そういうのおもしろかった。(#17)

(i) 毎回楽しみを見つけて、おもしろいニュースをシェアしたいな、という気持ちです(#17)

(j) 他の人に Upload されないように、他の人が見る前に早く新しいニュースを探すようにしました。(#13)

また、クラスメートが作った質問に答える活動は、難易度が調整されていることから、学習の役に立ったと感じている学習者もいた。

(k) 他のクラスメートが作った質問は、難しい専門的な知識がなくても回答できる質問なので、このような記事の質問があれば、勉強に役に立つと思います。難しすぎれば、時間が無駄だと思って、他のタスクをするかもしれません。(#3)

以上、パレット活動は学習者間で楽しみながら実践できる要素を備えていることが、自律学習の促進に役立ったと考えられる。

課題１：消極的な参加者への支援

インタビューに答えた 8 名中 2 名は、ほとんど Padlet 活動に参加しなかったため、その理由を尋ねたところ、「忙しすぎた」「すでにニュースは聞き取れるから必要ないと思った」と答えた。確かに双方とも聴解テストなどで高得点を得ていたため、必然性を感じていなかったのであろうが、日々のニュースを視聴続けることにより、学べることもあったはずである。また、他の学習者と共に学び合う機会が得られなかったことも残念である。よって、このような学習者には、参加する意義を伝えるなどして参加を促す必要があった。

課題 2：メディア情報リテラシーの教育

Padlet 活動では、プロジェクトに必要な情報を収集し、思考を深めたり、メディアを批判的に捉えたりするなどメディア情報リテラシーを高めることも目標としていた。しかし、

それはほとんど達成できなかった。その主な理由は、プロジェクトで扱ったテーマ（自宅学習の環境に対する意識、 新型コロナウイルスの接触追跡技術とデータプライバシー、ポイ捨て問題、環境病、ヴィーガニズム）に関するニュースが少なかったためである。

(l) データプライバシーのニュースは少ないと思います。(#13)

(m) 日本のニュースは、時々、とても小さいことが報道されている。例えば、猫のあるある、とかとても小さいことです。ニュースではないと思います。でも、報道されてる（#3）

(n) 日本のメディアは、あんまりシリアスじゃないものも結構出ますよね（#17）

(m)と(n)のように、日本には娯楽性が高いニュースが多いことに気づいたという点では学びもあったと言えるかもしれないが、メディア情報リテラシーを高めるためには、より積極的な教育的介入が必要であると言えよう。

4. まとめと考察

本稿では、映像ニュースを教材として Padlet を介して学び合う一連の活動を紹介し、その成果（学習意欲を高める、言語運用能力を強化する、自律学習を促進する）と課題を報告した。最後に、この実践の目標であったアクティブラーニングを促進したか否かについて考察したい。「星日合同調査プロジェクト」には、時々刻々と変化している新型コロナウィルス対策や、環境問題に関する意識などをテーマに調査、分析、発表するなど多様な能動的タスクが組み込まれていた。そのため、かなりの言語運用能力が必要だったが、どの学習者も積極的に取り組み、成功を収めた (https://youtu.be/9jDNof45oOU)。よって、言語運用能力を強化できたという面では、アクティブラーニングを遂行するのに役立ったと言えるかもしれない。しかし、テーマに直結した情報を収集し、それを批判的に解釈したり議論を深めたりするという目的を達成するには不十分であった。よってその成果は限定的であると言わざるを得ない。とはいえ、Padlet 活動は「自分の必要な情報を自分で検索、収集、種々選択、習得する」（當作 2019：p. 8）という「自律的選択性」、それを共有して質問しあったりする「協働性」、楽しみながら継続できる「持続性」、ニュースキャスターに扮してニュースを伝えたり、クイズを作成する「創造・表現性」など、学習に重要な特性を兼ね備えているため、今後も実践していきたいと考えている。

参考文献

ウォーカー泉. 2021a.「学習意欲を高めるオンライン授業とその課題-ポストコロナ時代における日本語教育のための一考察-」早稲田教育学会春季大会予稿集 28-31.

坂本旬. 2008.「協働学習とは何か」『生涯学習とキャリアデザイン』49–57. http://cdgakkai.ws.hosei.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2017/04/2008_010.pdf

鈴木克明・根本淳子・合田美子. 2010.「我が国における ARCS をめぐる研究動向」『教育システム情報学会第 35 回全国大会論文集』99–100.

當作靖彦. 2019.『ICT×日本語教育-情報通信技術を利用した日本語教育の理論と実践』東京: ひつじ書房.

溝口慎一. 2014.『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東京: 東信堂.